

# 小谷コレクション

本展示では、8000点に及ぶ山岳図書の一大コレクション、小谷コレクションの逸品を

1. 洋書（ヨーロッパ・18－19世紀の書物）
2. 和書（日本・江戸時代ほか）
3. 和書（日本・近代）
4. 地元出版物
5. 雑誌

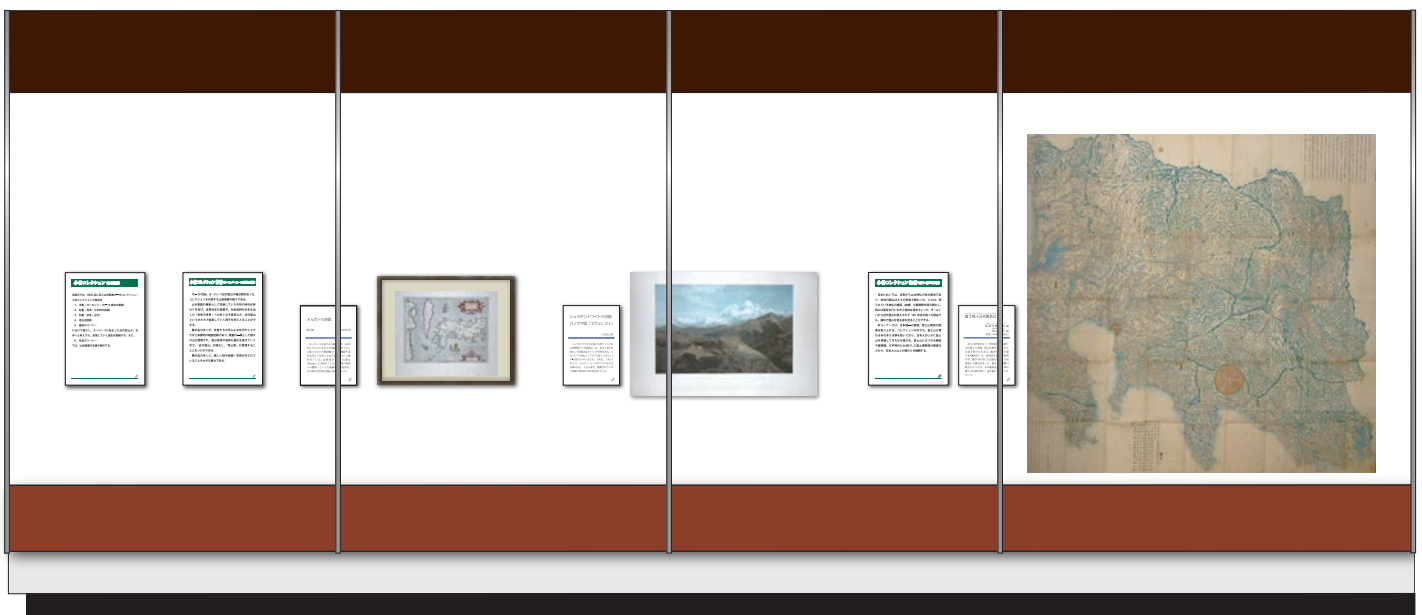
のコーナーに分けて紹介し、ヨーロッパに始まった近代登山が、日本へと移入され、定着していく歴史を概観する。また、

6. 名品
- のコーナーでは、山岳図書の名著を展示する。

## 洋書 （ヨーロッパ・18－19世紀の書物）

18－19世紀、ヨーロッパ近代登山の確立期を彩った、コレクションを代表する山岳図書の数々である。山を悪魔の棲家として忌避していた中世の時代が終わりを告げ、自然科学の発展や、大航海時代が生み出した「未知の世界」へのあくなき探求心が、近代登山というかたちで結実していく様子を見てとることができる。展示品の多くが、学者たちの手による氷河やヒマラヤなど未開地の踏査記録であり、踏査の一環として数々の山が登攀され、登山技術や道具も進化を遂げていく中で、「近代登山」が確立し、「登山家」が登場することとなったのである。

展示品の多くに、美しい絵や版画・写真が付されていることも大きな魅力である。

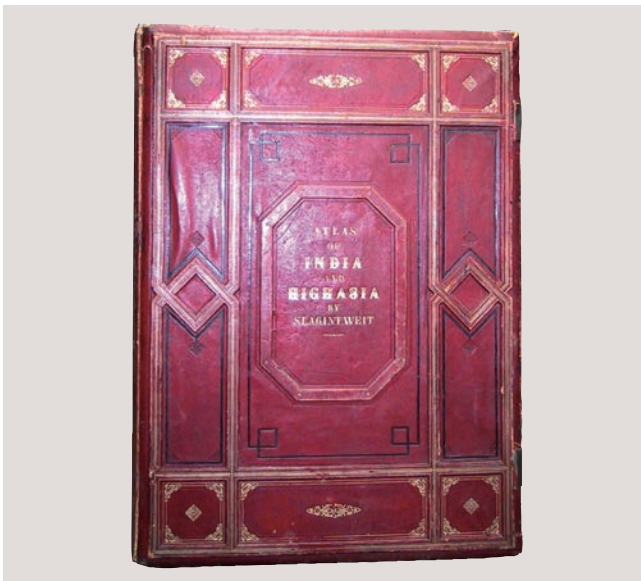


< 小谷コレクションコーナー >



17 メルカトル地図 1633年 (個人蔵)

ヨーロッパにおける大航海時代、1633年にアムステルダムで印刷されたフランス版メルカトル地図帳の一部。朝鮮半島が大陸とつながっておらず、島として描かれている。北海道がなく、信濃は「Rinano」と書かれている。「未知の世界への探検」という大航海時代の気質は、その後の近代登山発展の基底となった。



8 Atlas of India and High Asia (Results of a scientific mission to India and high Asia) 1861-1866年 (サイズ: 990mm × 710mm)

シュラーギントワイト3兄弟がプロシア王の後援を得て、1854年から58年にかけておこなった、インド・ヒマラヤ地方の調査記録報告書4冊と60枚に及ぶ図版を納めていた大型本の型をした箱。図版の内、29枚はパノラマ図であり、エヴェレストやカンチェンジュンガなどが原色で見事に描かれている。



18 シュラーギントワイト報告書の附図 パノラマ図「エヴェレスト」1855年

シュラーギントワイト3兄弟の大著「インドおよび高地アジア踏査記」に付されたパノラマ図。このパノラマ図は、「アトラスNo.1 エヴェレスト - 旧名ガリサンカアル」である。1855年6月、ヘルマン・シュラーギントワイトにより描かれた。下方にまだ、測量されていない地球上最高の山と付記されている。



9 An account of the glaciers or ice Alps in Savoy : In two letters, one from an English gentleman to his friend at Geneva; the other from Peter Martel, engineer, to the said English gentleman / by Peter Martel 1744 年

1744 年にサヴォイ氷河を報告した2通の書簡に脚註を付し、銅版地図・図版を加えて一冊の本に仕立てて出版された書。氷河に関する最も古い著述であり、アルプス最高峰モン・ブランが登場するのも本書が最初である。著者マーテルについては不詳。この本自体は、日本山岳界育ての親である小島烏水の旧蔵本。



10 Travels through the Alps of Savoy and other parts of the pennine Chain : with observations on the phenomena of Glaciers / by James D. Forbes 1843 年

スコットランドの高名な氷河学者、フォーブス（1807-1868）が、サヴォイ地方のアルプス（シャモニ付近）を旅行した際の旅行記で、本書はその初版。氷河の現象を科学的に分析・著述した最初の書物として名高い。フォーブスはエジンバラ大学で教鞭をとるかたわら、アルプスの初登頂を成功させるなど、科学的登山の祖といわれる。



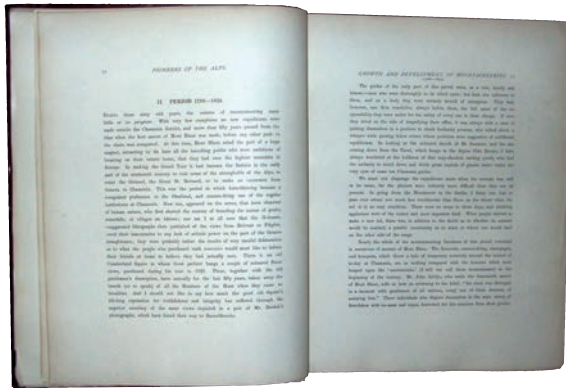
11 Travels from France to Italy, through the Lepontine Alps; or An itinerary of the road from Lyons to Turin, by the way of the Pays-de-Vaud, the vallais, and across the Monts great St. Bernard, Simplon, and St. Gothard / by Albanis Beaumont 1800 年

1786 年5月26日にヴェニスを出発して北へ向かい、レポンティンアルプス（イタリアとオーストリア国境付近の山々）を越えてオーストリアのフェッセンに至るまでの山旅の報告書。巻末にブレンナー山頂、ヴェルナー山群、インスブルグの谷などを描いた素晴らしい銅版画が10枚収録されている。著者ボウモンについては不詳。



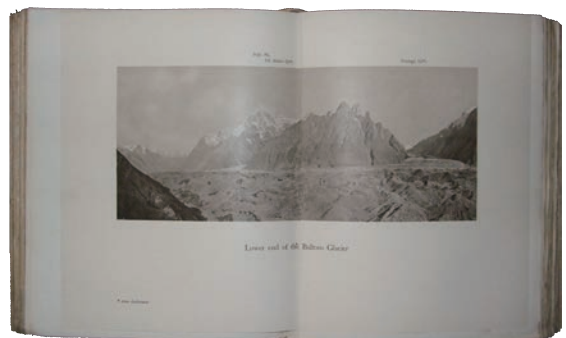
12 A history of mountains : geographical and mineralogical / by Joseph Wilson 1807 年-1810 年

世界をヨーロッパ・アジア・アフリカ・アメリカに分類し、それぞれの地域における山名・標高と位置を記した、3冊2000頁に及ぶ大著。著者ウィルソンについては不詳。日本の山についても、富士山・比叡山・箱根山がとりあげられている。富士山については砂走りの説明が見られる。小島烏水旧蔵本。



15 The pioneers of the Alps / by C.D. Cunningham and W. de W. Abney 1887年

近代スポーツ登山の歴史をひもといた書。14世紀のピラトス登山から稿を起し、遭難事故一覧表、冬期登山やザイル・アイスアックス技術についての解説、約40人のガイドの紹介、ならびに追悼文などを記す。著者はイギリスの登山史家であるC. D. カニンガム (1856-1896) とW. de W. アブニイ。



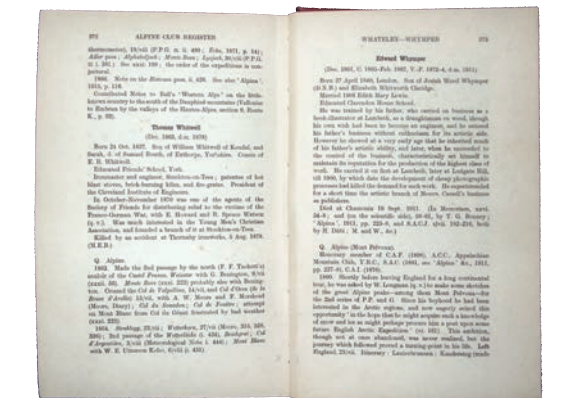
13 Karakoram and western Himalaya 1909: an account of the expedition of H. R. H. Prince Luigi Amedeo of Savoy, Duke of the Abruzzi / by Filippo de Filippi; with a preface by The Duke of the Abruzzi 1912年

イタリアの学者で探検家でもあるフィリッピ・フィリッポ (1869-1938) が、1902年に参加したK2遠征の報告書。大部の書物であるが、別冊として巨大なバルトロ氷河と長く連なるK2を主峰とした雄大な峰々のパノラマ写真が添えられている。K2付近の10万分の1の地図も貴重な資料である。



14 The valley of flowers / by F. S. Smythe 1938年

英国の著名な登山家であるF. S. スミス(1900-1949)が、250部限定の著者署名入りで出版した書。「丘と丘陵に咲く花を愛する人々に」と扉に印刷されているように、ヒマラヤの岩のあい間に、あるいはせまい緑の地帯に咲く可憐な草花についての本である。美しいカラー写真16葉が添えられている。



16 The Alpine Club Register / by A.L. Mumm 1923年-1928年

アルパインクラブの会員の略歴および登山歴 (1857-1890) を記述した書。近代スポーツ登山黄金時代の著名な登山家の名前が列ねられている。著者はイギリスの登山家であり、英国アルパインクラブの会長であったアーノルド・ルイス・マム。マムは、大正11年(1922)に日本を来訪し、富士山や北アルプスの峰々に登っている。